

# 大堂(だいどう)

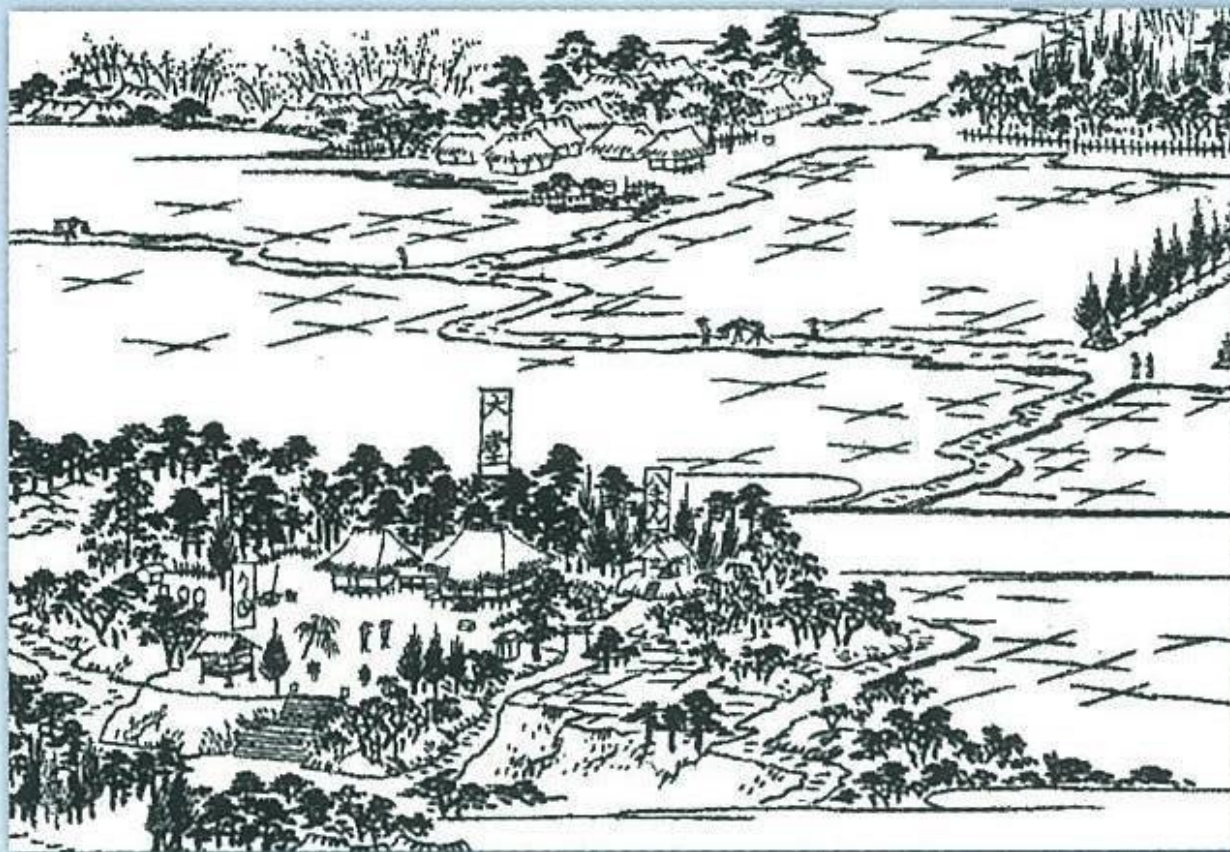
板橋区登録記念物(史跡) 昭和61年2月14日登録

大堂は、旧下赤塚村にある寺院で、現在は松月院の管理となっています。18世紀末に成立した地誌、『四神地名録』によれば、大同年間(806~10)の建立と伝えられるとあります。また、19世紀前半成立の地誌、『新編武蔵風土記』には、阿弥陀堂(大堂)は、建武・延元頃(14世紀前半)の建立で、七堂伽藍をもつ荘厳な大寺であったことから、大堂と称されたと記されています。

さらに同書によると、永禄4年(1561)の上杉輝虎による小田原城への出兵に際しては、兵火によって大堂は焼失してしまい、以降は寺勢も衰微したとされます。

現在の建物はその後、再建されたと考えられますが、少なくとも延宝年間(1673~81)にはさかのぼれる三間四方の三間堂です。

なお、国の重要美術品である暦応3年(1340)の銘をもつ銅鐘は、区立郷土資料館に、天正2年(1574)の像内銘がある阿弥陀如来坐像と、閻魔王坐像はともに松月院の寺宝館「松宝閣」に、それぞれ保存・展示されています。



江戸名所図会(1836年刊)より(部分)

所在地:板橋区赤塚6-40-7

交通:東武東上線「下赤塚駅」徒歩18分

国際興業バス「赤塚八丁目」徒歩2分

[成増駅北口・赤羽駅西口⇄高島平操車場(下赤03・赤02・赤02-2)]

板橋区コミュニティバス「赤塚庁舎入口」徒歩1分